

まちとしての公民館

たくさんの場所が集まって出来た「まちのような公民館」を提案します。

緑濃い山々・豊かな水源・古くから親しまれる多賀大社等、多賀町では自然と人々が共に生きることで、豊かな歴史と文化が育まれてきました。

人が集まる土間を中心に、緑や風の感じられる居場所を散りばめ、賑わいと落ち着きを併せ持つ公民館を提案します。



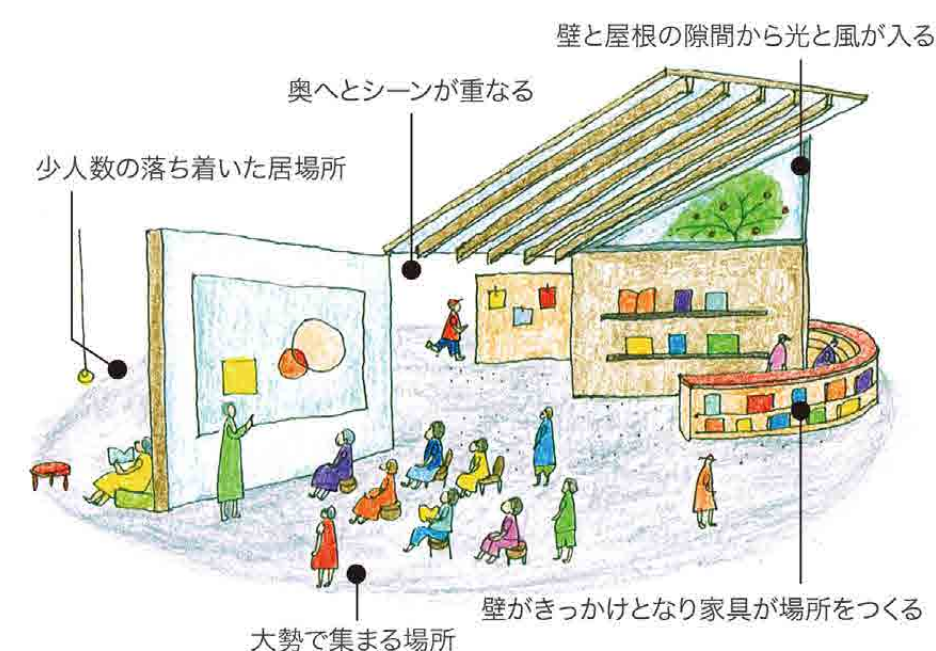
外観イメージパース：屋根と壁が連なりたくさんの居場所をつくる

設計コンセプト

- 1 大きな場所と小さな場所が集まることで、誰もが
お気に入りの居場所を見つけられる空間をつくります。
- 2 フレキシブルに使える土間を中心とすることで、
まちの方々が気軽に立ち寄る「まちづくりの拠点」
を生み出します。
- 3 製材をベースに、地域の木材を最大限に利用した
シンプルで軽やかな構造とします。
- 4 多様な大きさの特徴ある屋外空間を設けることで、
多賀町らしい自然を感じられる空間をつくります。
- 5 まちの方々とともにつくるプロセスを大切にし、経過を
広くまちに伝えることで完成までの機運を醸成します。

一つの空間に多様な居場所をつくる

壁と屋根によって、一つの空間の中に明るく大きな場所や静かで落ち着いた場所など、一人でも大勢でも楽しめる多様な居場所をつくります。



(a) 町民の持つ愛着を感じることができる、多賀ならではの魅力と誇りを再認識出来る施設整備

屋根と壁の連なりで 多賀らしい空間をつくる

- 屋根と木の外壁、緑が連なることで、表情豊かな多賀らしい立面をつくります。
- ばらばらと配置される壁や可動式建具によって、滋賀の伝統的な日本家屋に見られるような軽やかで視線を奥へと導く空間をつくります。

山並みに呼応する勾配屋根

- 片流れの屋根が組み合わせり、鈴鹿山系の山並みに調和する佇まいをつくります。

水平に連続し、 風や光の通り抜ける空間

- 芹川から蕎麦畑への心地よい風や光の通り抜ける、水平に連続する空間とします。



多様な屋根や壁、緑が連なりまちなみをつくる様子。 木造の架構と可動式建具によって空間が奥へと連なる。

